



2011年の東日本大震災直後、恐怖を振り払うように必死で揮毫したという、石飛博光氏の超大作「富士山」(草野心平詩「富士山 作品第参」・毎日芸術賞受賞)。縦240cm×横1653cm (前半部分)、成田山書道美術館蔵

徳島県立文学書道館 開館20周年記念 書道特別展

# 石飛博光 一律動する書

2023年 2月17日(金)ー3月26日(日)

[会場] 徳島県立文学書道館

1階 特別展示室・ギャラリー、3階 書道美術常設展示室

[開館時間] 9:30-17:00 [休館日] 月曜日

[観覧料] 常設展の観覧料を含む

一般520円(410円)、高校・大学生360円(290円)、小・中学生260円(200円)

( )内は20人以上の団体割引料金、小・中・高校生は土・日・祝日・春休み期間中は無料、高齢者(65歳以上)と各障がい者手帳をお持ちの方は半額。

[主催] 徳島県立文学書道館 [後援] 徳島県教育委員会・徳島新聞社・四国放送

[関連イベント]

■トーク「作品に込めた思い」 申込必要 (各回先着100人)

講師：石飛博光 (書家、創玄書道会名誉会長)

3月5日(日) ①10:30-12:00

②14:30-16:00 (追加開催)

※①②とも定員に達しました

■展示解説 \* 申込不要、観覧券必要

講師：松山佳代 (当館学芸員)

3月12日(日)、3月21日(火・祝) 各11:00-11:30

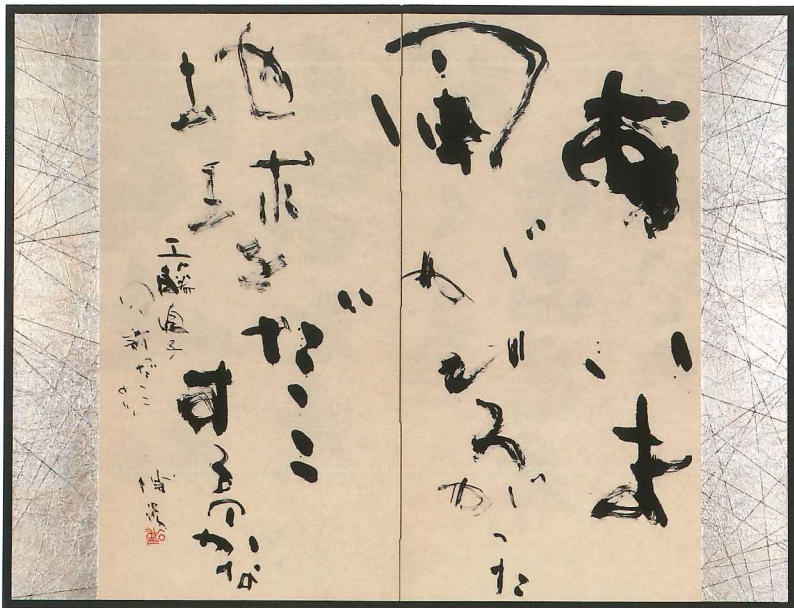
徳島県立文学書道館

〒770-0807 徳島市中前川町2丁目22-1

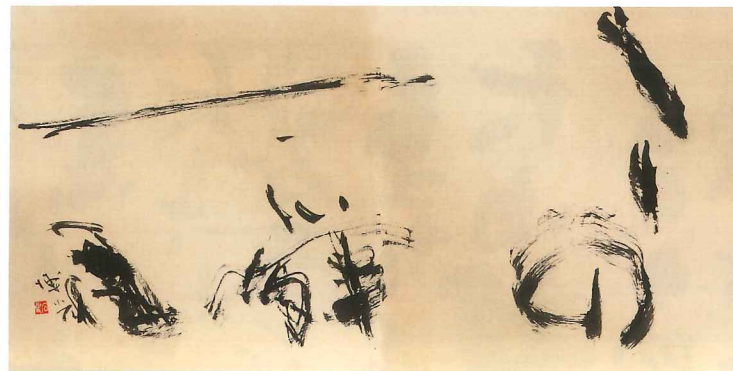
TEL 088-625-7485 FAX 088-625-7540

e-mail kotonoha@bungakushodo.jp



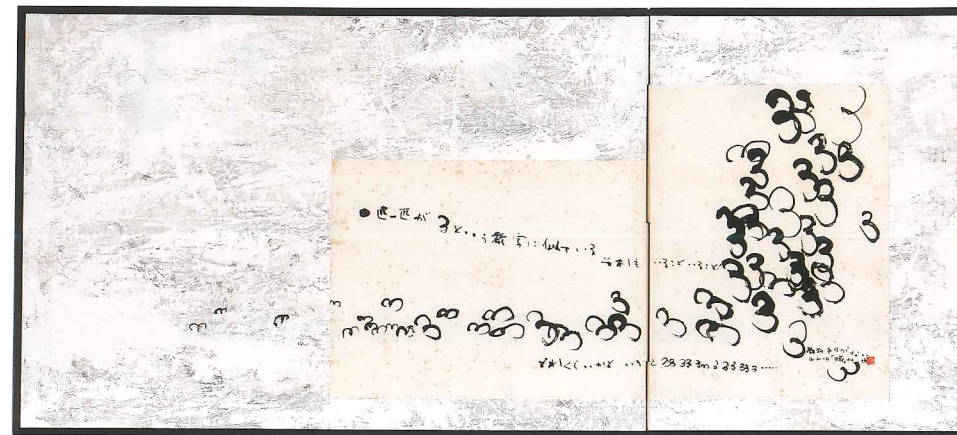


1 「あ いま 風がひろがった 地球をだっこするのかな」



2 「この一瞬」

- 1 工藤直子の詩「だっこ」より  
2020年、「日本の自然と書の心 日本の書200人選〜東京2020大会の開催を記念して〜」出品作  
138.2cm × 141.4cm
- 2 この一瞬  
2021年、「書・六人展」出品作  
58.4cm × 119.6cm
- 3 蟻（ルナール著『博物誌』、岸田国士訳より）  
2004年、「NHK趣味悠々 石飛博光のたのしい暮らしの書道」掲載作  
60.0cm × 140.0cm



3 「一匹一匹が、3という数字に似ている。…」

日本を代表する書家・石飛博光は、師の金子鷗亭が提唱した、誰もが親しめる「近代詩文書」の創作に精力的に取り組み、多彩な作品を発表しています。さらに、書道関連書籍の出版や、各種メディアへの出演のほか、ロゴタイトルの揮毫なども多数手がけ、現代的で洗練された書が高く評価されています。

本展では、2011年の東日本大震災直後に、その恐怖を振り払うかのように必死で揮毫したという超大作「富士山」（毎日芸術賞受賞）や近年の代表作、さらに新作など43点を展示します。“現代の書表現”を追求し続ける石飛博光の、言葉と書技が織りなす書の世界を紹介します。



いしとび ひろみつ  
石飛 博光

1941年、北海道赤平市生まれ。東京学芸大学書道科卒業。88・89年、日展で特選を連続受賞。2009年、毎日書道展で文部科学大臣賞受賞。12年、毎日芸術賞受賞。13年から現代書道二十人展に出品。個展開催18回。教科書ほか編著書多数。現在、日展会員、全日本書道連盟顧問、毎日書道会常任顧問、創玄書道会名誉会長、日本詩文書作家協会常任顧問、全国書美術振興会顧問などを務める。

#### ■交通アクセス（JR徳島駅から）

〔徒歩〕約15分

〔バス〕約10分。

「吉野本町2丁目」バス停下車、  
徒歩約5分。

〔タクシー・自動車〕約5分

#### ■徳島阿波おどり空港からJR徳島駅まで リムジンバスで約25分

#### ■駐車場 当館北側（43台、大型バス2台）

※3月26日（日）午後2時から3時まで、1階ロビーで「ことのはロビーコンサート」（事前申込制）を開催します。ご了承ください。

